

9 EYLÜL

IN TURKEY

Natsumi Aoki

はじめに

アクセスいただきありがとうございます😊国際文化学科2年の青木夏海です。8月25日に日本を旅立ち、2024の7月までトルコのイズミル経済大学で留学をすることになりました。ここでは毎月、私の生活の断片を皆様に共有させていただきます。将来留学を考えている方の手助けに、少しでもなれば幸いです。



留学準備

「トルコ留学をする」と人に話すと、大丈夫かと大抵の場合心配されます。確かに身近ではないし、イメージをつかむのが難しい国です。自分自身もまさかトルコに行くなんて、全く想像していませんでした。そんな私がこの大学に出会ったのは1年後期、協定校留学について現実的なことを調べているときでした。非英語圏でありながらオールイングリッシュで学部の授業が受けられること、食べ物がおもしろいところ、そして自然と近代的な文化の調和がとれた街の雰囲気の魅力を感じ、たちまちイズミルの虜になりました。

そして願書を提出してからは本当にあっという間です。今年度のイズミル経済大学（IEU）の派遣が始まるまでの流れをまとめてみました。一見時間にゆとりがあるように見えますが、実際のところかなりハードでした。特に4月以降は日本とトルコの双方に、文書の提出や契約が大量に発生します。保険の加入にしても、書類の取り寄せにしても、毎度やり取りに時間を要します。私がギリギリ人間なばかりに、期限に間に合わないのではと何度も肝を冷やしました。

1月中旬 応募締め切り

2月上旬 学内面接

3月 内定通知

4月～6月 IEUに書類提出

9月下旬 派遣開始

派遣開始前

渡航する日付やフライトなどに関して、SUACからの指定はなく個人の自由に委ねられています。私がほかのメンバーよりもこの報告書を提出する時期が早いのは、私が1か月ほど好き勝手に冒険をしていたから、ということです。大学の授業が始まるのが10月からであるため、今月は個人的な旅の日記を主に綴りたいと思います。

1.韓国

日本を家族と出発したのち、ソウルに3泊滞在しました。何となくおいしいものが食べたい、という軽薄な理由での旅行だったため、ノープランで来てしまいました。韓国の保湿力抜群なパックや化粧水、リップクリームを乾燥した気候のトルコに持って行けたことは、非常にラッキーだと感じています。しかも半分くらい店員さんのおまけです。嬉しい。



2.イスタンブール

家族と分かれた後に一人、12時間のフライトを経てアジアとヨーロッパの境へとやってきました。言語も人も景色も、何もかもが新鮮で、とにかくシャッターを押す手が止まりませんでした。ブルーモスクやアヤソフィア、ボスフォラス海峡など、世界史の資料集でしか見たことのない景色を目の前にして、心が満たされた4日間でした。ただ、ホテルで呼んでもらったタクシーがなぜか高級車で、1週間分の生活費が飛んで行きました。イズミルより商売上手な街です。



3. 語学学校&ホームステイ

トルコの街の人は基本的に英語が話せません。事前にこの情報を得た私は、最低限の語学力が必要だと考え、2週間トルコ語学校に飛び込みました。昨年度に留学されていた先輩が同じ語学学校に通っていたため、助言をいただき全く同じコースをとりました。生徒はスイスとドイツの方を含めた3人で、先生が個人の進度に合わせて授業を進めてくれました。日本語の語彙はトルコ語とかけ離れているため、ほかの生徒よりも単語を覚えるのにだいぶ苦労しました。それでも自分で単語リストを作ったり、単語を日常と照らし合わせたりすることで、挨拶、自己紹介、レストランでのやり取りなどができるようになりました。また、先生がターキッシュコーヒーやお菓子、音楽など、トルコの伝統に触れる時間をつくってくださり、文化としての知識も深められました。



同期間の滞在先のオプションとしてホームステイがあったので、せっかくだと思い付けてみました。28歳の夫婦と4歳の可愛い娘さんのいる家族です。一人行動が続く心細かったところに、自分の居場所ができたことへの安心が大きかったことを覚えています。料理上手なホストマザー…というより年齢的にシスター、が毎日朝夜のご飯をつくってくれました。実はトルコはヨーグルトの発祥地であるといわれており、お米やポテトなど、あらゆる具材にヨーグルトがかかっています。最初は驚きましたが、味はとてもおいしいし、見た目が映えています。夜になるとみんなでナッツを食べながらテレビを見ました。ちなみにトルコではひまわりの種をナッツの一種として食べます。日付が変わるころに解散することが多かったのですが、4歳の子どもがまだ元気に走り回っている姿にいつも衝撃を受けていました。イズミルの子どもは日が暮れても普通に外で遊んでいます。元気すぎますし、何より治安がいい証拠でしょうか。



WELCOME WEEK

交換留学生はErasmusと呼ばれ、ESNというグループに所属します。この団体を運営する現地生徒が私たち一人ひとりのバディとなって、学校生活や日常の相談役となってくれます。下のツーショットは、私のバディと海沿いの中心街でお茶した時の写真です。3時間ほど喋り倒したのですが、一番盛り上がったのは地震の話でした。バディに限らず、ESNの生徒はどんな些細なことでも気軽に相談に乗ってくれます。



授業2週間前からはWELCOME WEEKといって、ESNのトルコ人学生がERASMUSの生徒をもてなしてくれる、所謂お楽しみウィークが始まります。みんなでご飯を食べたり、エフェソスに行ったり、ピクニックをしたり、ボウリングをしたり、ヨーロッパの学生と親睦を深める絶好の機会でした。50人ほどいるERASMUSの生徒は、半分ほどがドイツ人、ほかイタリアやパキスタン、ポーランドなど、ヨーロッパを中心とした国籍で構成されています。東アジア人はSUACの3人だけです。日本の文化、とりわけアニメが大好きな学生が多く、かなり優しく接してもらっています。私の英語力が乏しくても、最後まで話を理解しようとしてくれて、遊びにも誘ってくれます。日本人なんて相手にされないかもと心の奥底で不安を抱えていたのですが、いい意味で期待を裏切られました。本当にありがたいなと感じています。みんなが日本人の物珍しさに慣れる前に、少しでも対等な英語でお話しできるようになりたいです。





休日

授業が始まったら忙しくなるだろうな～ということを見越して、土日はめいっぱい遊ぶことにしました。日本人3人で行った遊園地は、19時にアトラクションがオープンするような夜型でした。ホテルから10分くらいの近所の遊園地だったため、あまり期待はしていませんでしたが、帰るところにはくたくたになるくらい楽しんでしまいました。全てのアトラクションがスリル満点で、ほぼ垂直までスイングするバイキングが4分間も続いたときは、今までの人生で一番叫んだ自信があります。

また、そろそろ夏が終わってしまうということで、高速バスに乗って海水浴にも行きました。Erasmusの学生何人かを前日に誘ったところ、最終的には11人の大所帯となりました。青く透き通った海に癒され、肌はこんがり焼け、芸術的な街路の散策を楽しみました。



反省

実は、ホームステイをしている間に全くごはんが食べられなくなる時期がありました。原因はおそらく水。浄水器を通したのですが、私がそれを常温で持ち歩き飲んでしまったからではないでしょうか。何かが胃に入ると途端に息苦しさが数時間もわたって続き、病院に行くかとても迷いました。トルコの水道水は飲むものではありません。必ず外で購入したボトルの水を使用しましょう。現在上記のような症状はないですが、胃がかなり弱ってしまった関係で、刺激の強い乳製品、特にヨーグルトが食べられません。乳製品はトルコの基本といっても過言ではないため、日常に若干の支障をきたしています。



今後の課題

1. アパート探し

イズミル経済大学には寮があり、私もそこで暮らす予定でした。しかし、トルコ渡航後に担当者から連絡があり、「今期の寮は満員なので、各自でアパートを探してください」と言われてしまいました。突然のことに信じられない気持ちですが、たくさんの人の力を借りて大至急捜索中です。

2. イカメットの手続き

現在トルコに日本人が入る時はビザは不要です。その代わりに3ヶ月以上滞在する場合は「イカメット」を取得しなければなりません。これが先輩曰く厄介とのこと。私は既に一か月滞在している状況かつ住所もないので、発行が間に合うか不安な気持ちしかありません。

3. 履修登録

SUACとの単位互換を希望する私にとって、履修登録は慎重な作業になります。イズミル経済大学での単位互換は前例がないため、どの授業をいくつ履修したら良いのか全く検討が付きません。

4. ゼミ選考

2年生なので、10月の説明会を皮切りにSUACのゼミ選考が始まります。エントリー先はおおよそ決まっていますが、これでいいのかなとドキドキです。トルコの時差は6時間であるため、オープンゼミにオンライン参加する場合、こちらは早朝となります。

